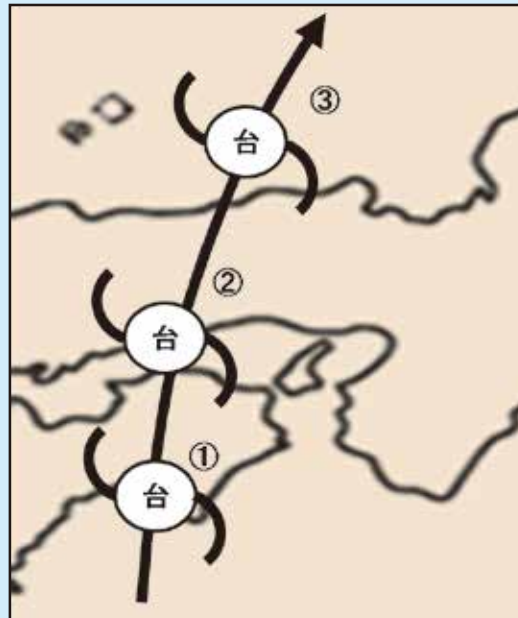


◎大阪湾では、このような台風経路には特に要注意

注意を要する台風進路の例



大阪湾特有の気象現象例

- ・台風が大阪湾の西側を通過する場合、接近に伴い、東から南寄りの風が連吹し、通過後は西寄りに変わり、風速の増大から減少まで数時間から30時間以上に及ぶこともあるので通過後も注意
- ・神戸沖で風速が35m/sを越えることもあるので注意
- ・湾内の波浪は、南西から西寄りの波が大きくなり、神戸沖でも波高が4mに達することもあるので注意
- ・波高の高い時間が、波高の上昇から40時間以上に及ぶこともあるので注意

台風の位置	風 況		留意事項
①	E 寄り	徐々に風速が増大	台風接近に伴う風向変化も踏まえ、船間距離の確保に注意
②	S 寄り	危険半円に入り、風速が増大	風による圧流、走錨に注意
③	W 寄り	風が徐々に穏やかになっていく	湾内へのSWの打ち込み波浪が継続して発達することに注意

◎大型低気圧や冬型気圧配置、日本海に位置する低気圧等に要注意

- ・西寄りの風が連吹し、風速が30m/sに及ぶこともあり注意
- ・短周期の西寄りの波浪の発達に注意
- ・友ヶ島からの波浪が関西空港周辺海域まで達することがあるので注意

◎気象情報等入手先

- 1 気象庁台風情報
<https://www.jma.go.jp/jp/typh/>
- 2 船社、代理店等からの電話、FAX、メール
- 3 国際VHF (16ch)
- 4 海上保安庁「海の安全情報」
(パソコン)
<https://www.kaiho.mlit.go.jp/info/mics/>
(携帯)
<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/m/index.html>
(スマートフォン)
<https://www6.kaiho.mlit.go.jp/sp/index.html>

海の安全情報用QRコード

携帯用QRコード

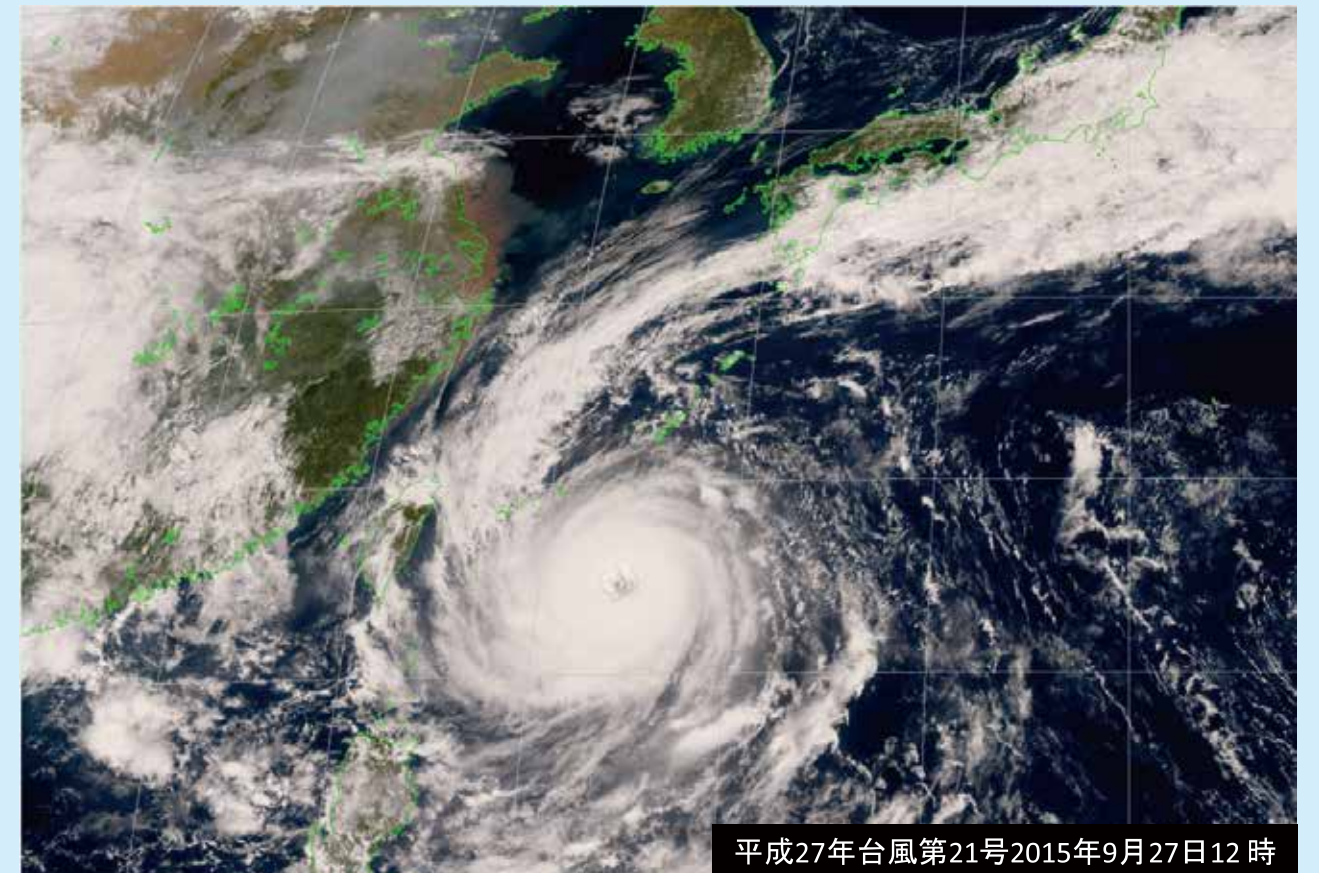


スマートフォン用QRコード



大阪湾における台風・大型低気圧接近時の避難についての留意事項等

～～まだ大丈夫は、もう遅い～～
余裕のある時期に、早めの避難を心がけましょう！



平成27年台風第21号2015年9月27日12時

(写真提供：気象庁)

- ◎ 最新の台風情報等を入手するように心掛けましょう！
- ◎ 港内停泊中に港長から避難等に関する指導や勧告等が出された場合は、これに従いましょう！
- ◎ 海上保安庁や周囲の船舶との連絡体制を確保しましょう！
- ◎ 避難にあたっては適切な錨地や海域を選定しましょう！
- ◎ 台風の針路や位置によっては風だけでなく波浪の影響についても注意しましょう！
- ◎ 緊急時は、直ちに対応できるよう常に準備しましょう！
- ◎ 入湾前の船舶は、無理に入湾せず外洋で避難する方が良い場合もあるので、考慮しましょう！

公益社団法人 神戸海難防止研究会

この資料は、平成30年3月1日現在の情報を掲載しています。

大阪湾における台風・大型低気圧接近時の避難についての参考図

《守錨直及びちちゅう時の一般的な注意事項》

- (1) 振れ回り運動の確認
- (2) 船位の確認
- (3) 船速の監視
- (4) 風向、風速の把握
- (5) 他船との相対関係の確認
- (6) 国際VHFの常時聴取
- (7) 五感による異音等の早期認知
- (8) AISのスイッチONと正確なAIS情報の入力

阪神港（神戸区、尼崎西宮芦屋区） 台風来襲時の勧告等

警戒態勢

《台風が大阪湾に接近するおそれがあるとき》

- ◎台風の動向に留意
- ◎乗組員の待機
- ◎機関の準備等必要な避難体制を整える

大型船等避難勧告

《阪神港（神戸区、尼崎西宮芦屋区）が台風の暴風域に入るおそれがあるとき》

- ◎10,000G/T以上の船舶
・・・原則、港外避泊
- ◎1,000G/T以上の船舶
（フェリー等を除く。）
・・・原則、入港見合わせ
- ◎1,000G/T未満の船舶
・・・避泊場所を選定し、
時機を失せず避泊開始
- ◎工事作業船等
・・・作業中止、安全な場所に避難

全船避難勧告

《阪神港（神戸区、尼崎西宮芦屋区）が台風の暴風域に入ることが必至と考えられるとき等》

- ◎1,000G/T以上の船舶
・・・原則、港外避難、保船等万全の措置
- ◎1,000G/T未満の船舶
・・・港内等の安全な場所に避難、厳重な警戒措置

台風避難等問合せ先

神戸海上保安部航行安全課
☎ 078-331-6743
FAX 078-327-8836
西宮海上保安署
☎ 0798-22-7070
FAX 0798-22-7071

阪神港（大阪区、堺・泉北港区）、 阪南港、台風来襲時の勧告等

警戒体制

《台風が大阪湾に接近するおそれがあると判断された場合》

- ◎気象情報収集、台風動向に留意
- ◎乗組員の招集、荒天準備、運航体制確保
- ◎関係先との連絡手段の確保

第一避難体制

《台風の暴風域に入るおそれがあると判断された場合》

- ◎大阪区
10,000G/T以上のばら積危険物積載船舶、J岸壁係留船舶
・・・原則、港外避難
- ◎堺泉北区
30,000G/T以上の船舶
・・・原則、港外避難
- ◎1,000G/T以上の大型船舶
（フェリー等を除く。）
・・・原則、入港見合わせ
- ◎工事作業船等
・・・作業中止、安全な場所に避難
- ◎小型船舶
・・・避泊場所を選定、時機を失せず避泊開始

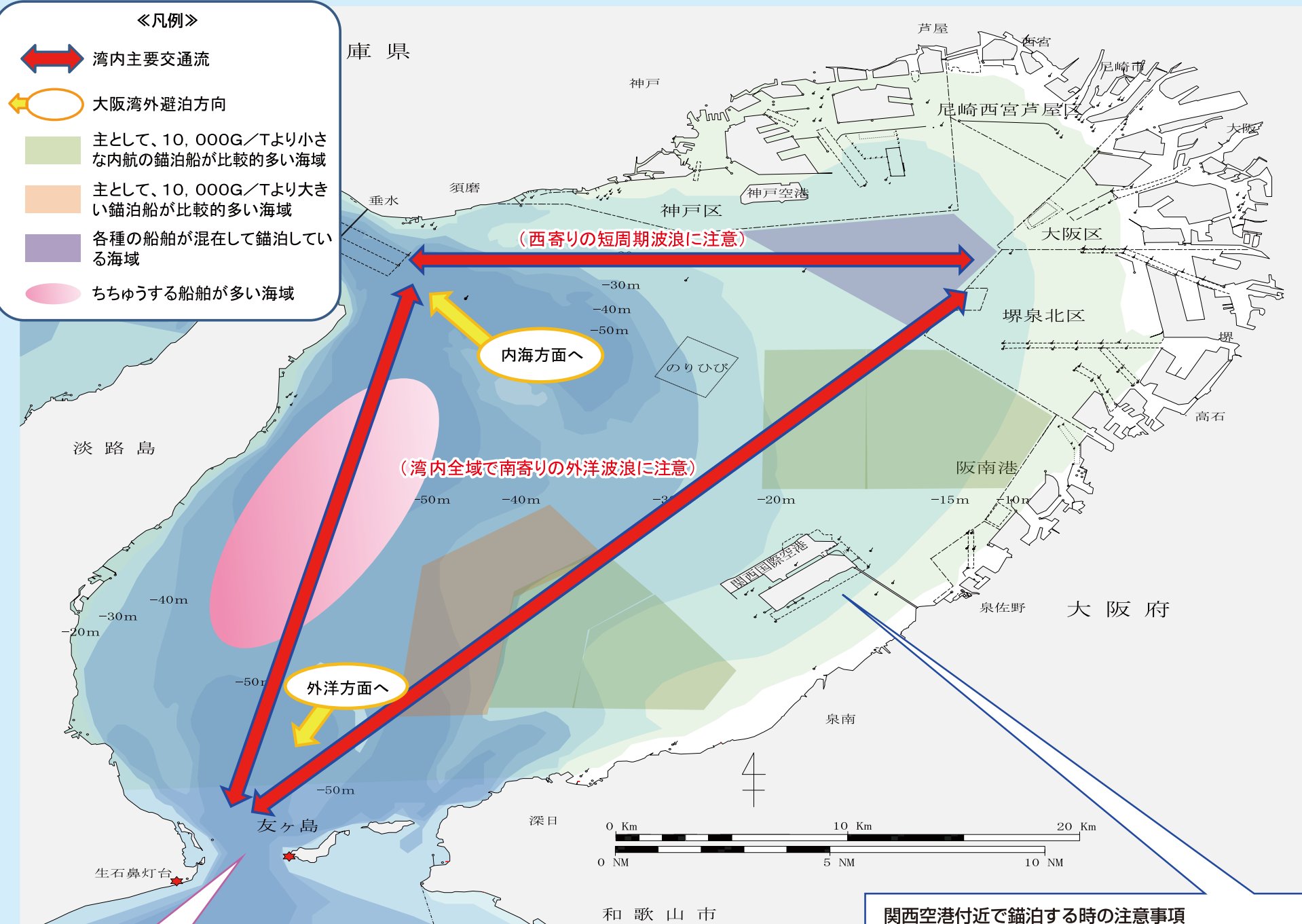
第二避難体制

《台風の暴風域に入るおそれが必至と判断された場合、両港が重大な影響を受けると判断された場合》

- ◎1,000G/T以上の船舶
・・・原則、港外避難
- ◎小型船舶
・・・河川、運河等安全な場所に避難、厳重警戒措置

台風避難等問合せ先

大阪海上保安部航行安全課
☎ 06-6571-0223
FAX 06-6572-1700
岸和田海上保安署
☎ 0724-22-3592
FAX 0724-37-0444



外洋波浪の
打ち込みに注意

この図は、錨泊実態を示すもので、錨泊を推奨する海域を示すものではありません。

※ 水深図は、近畿地方整備局「大阪湾環境データベース」を参考に作成したイメージ図です。

関西空港付近で錨泊する時の注意事項

- ① 関西国際空港の陸岸から、原則として3マイル離れた場所に錨泊してください！
《問合せ先》 関西空港海上保安航空基地 072-455-4999
- ② 空港周辺では航空法により制限表面が設けられ、錨泊船等の高さが制限されます。
《照会窓口》 新関西国際空港(株) 運用室 072-455-2055